

国立市議会議員 ◆ 一人会派《こぶしの木》

上村和子市議会レポート

こぶしの木 No.42

発行：上村和子事務所 〒186-0002 東京都国立市東3-11-12 ハロ一国立103 tel & fax : 042-580-2780
e-mail : kobusinoki.uemura@nifty.com ホームページ : http://homepage2.nifty.com/uemura_kazuko/

上村和子と市政を語る会

8月30日(日)午後1時半〜
くにたち福祉会館講座室

◆みなさまの声を活かします。

6月議会

駅からの眺望を壊す旧駅舎復原 用地取得費だけで8億円〜20億円以上？

6月議会で審議未了となった09年度一般会計補正予算が7月15日に開かれた臨時議会でも再提案されました。国立駅周辺まわりの基本計画策定のためのコンサルタント委託費用1632万円を含むものです。

この原案に対して公明党・共産党・明政会から修正案（コンサルタント委託費用を除く）が出され、結果、修正案が多数により可決されました（自民党新国会4名は退席）。私は原案に反対、修正案の方にも、保育審議会にかかる費用が計上されていたため反対しました。

1632万円に反対 コンサルタント委託費

私がコンサルタント委託費用1632万円に反対した理由は、これまで約2400万円の委託費をかけているにもかかわらずその成果が上がっていないこと、とりわけ07年9月議会で可決された約870万円のコンサルタント委託費用は、今回と全く同じ基本計画策定のためのものであり、その件の総括なしに新たな委託をすることには賛成できないというものです。

前回の870万円を使った委託については、「JRがのってくる基本計画案を策定するために必要」と説明されていました（上村のみ、その担保なしと反対）。

そうして作られた基本計画案の中

では、「南口公共用地とJR所有の用地を共同事業として一体的に整備し、旧駅舎の復原用地も確保すること」が「JRにとってのメリット」である」と書かれています。

しかし、今年4月に入り、JRから、

◆土地の権利関係が複雑化する中で市との共同事業をする気はない
◆今後、市が予定している駅周辺まわりのマネジメント組織に加わる意志はない

◆06年9月に（前上原市長と）文書で取り交わした協定通り、旧駅舎の復原のための底地は有償で市が買い取ることが前提で、用地買収費を基本計画の中で明確にしてほしい等の方針が伝えられたということです。つまり、870万円かけた結果が無駄になったのです。何故無駄に



桜満開時の国立駅ホームからの写真をパネルにし、「旧駅舎を復原すると、この風景はその陰になって見えなくなるのでは」と質問。市長は明確な回答をしませんでした。

なったのか、その反省のないまま、また1632万円もかけて、JRとの協議可能な「基本計画案」が策定されるとは思えず反対しました。

4月に、JRから、市と共同事業をする気がないと言われて以降、関口市長自身が一度もJRと交渉していないことも問題です。

市は旧駅舎敷地の買収交渉を開始

現在、市はJRと旧国立駅舎復原のための底地確保について協議を開始しています。しかし、このことを市民に対してのまちかどオープンハウスや市民説明会の資料の中ではは

きりと伝えていません。国立駅南口前にJRが保有している土地（旧駅舎跡地）は約2000㎡です。20億円以上の値のつく土地であるとみられます。市は2000㎡のうち、どれくらいの土地をいくらかで買うのかJRと協議するとしています。12月の基本計画策定までにJRとの協議を済ませる予定です。

旧駅舎の復原に反対です

私は国立駅南口に旧駅舎を復原することに反対です。

その大きな理由は以下の3つです。
① 駅舎復原には大変なお金がかかります。JR保有の土地2000㎡をまるまる購入すると20億円以上（そのうち駅舎の底地になる600㎡、約8億円？）分だけをJRが売ってくれるとは思えません。その周辺の土地は通路としてしか使い道がなくなるからです。旧駅舎の復原のためにも1億円近くが必要です。
② 駅前に600㎡の旧駅舎を復原すると歩行空間が狭くなります。
③ 駅ホームから眺められる大学通りの景観が損なわれます。

新しく生まれる2000㎡の国立駅南口広場は、オープンスペースとして残り、国立市民の意向を尊重したデザインの広場とすべきです。その方が、財政面でも、バリアフリーの面でも、景観面でも、新たな公共空間の創出（イベント、地場野菜の販売など）の面でも、防災の面でも良いと思います。

6月議会一般質問

生命と暮らしを守る視点から
国立市の施策を問う

6月議会での私の一般質問とそれに対する市の回答の概要をお伝えします。

いのちを守る施策

Q 自殺について 実態把握や残された家族の相談体制や防止策はできているか？

A 国立市内での自殺者は03・07年度合計で71人、都内他地区より自殺者出現率は低い。09年度は市民対象のストレスについての講演会、薬剤師会対象の講演会等を予定。

【私の考え】調布クッキングハウス主催のメンタルヘルス連続市民講座のような学習会が必要。

Q 「引きこもり」について 和歌山県田辺市は01年から当事者を入れての引きこもり検討委員会を設置、電話相談(年間延べ1000件)や、居場所づくりを行なっている。国立市でもそのような施策が必要と思うがどうか？

A (市長) 国立市としての独自の施策は行なっていない。「引きこもり」への居場所づくりが国立市に本来に必要なことか、あるいは、できることかどうか考える必要がある。【私の考え】「一人で静かに考えられるが、孤独ではない」という場が必要。行く場がなくて、苦しんでいる人は多い。

生活を守る施策

Q 窓口に相談に来た市民のみなさんに、「来て良かった。ほっと安心した。また来よう」と思っ帰ってもらえる相談体制づくりについて。

現在の社会状況の深刻さを反映するように、市役所の窓口やロビーは毎日人でいっぱいである。相談が深刻であればあるほど、初めての相談が即ちセーフティネットとなる事が大切だ。現状の相談室は窓がなく狭

9月議会でも引き続き取り組みます

危険な甲州街道の歩道

6月議会でも一般質問で取り上げましたが、現状の歩道の狭さは、東京オリンピックの時に、車線を2車線から4車線に増やすために両側に3.5mあった歩道を削った事によるもので、東京オリンピックが終了したら元に戻すという話もあったそうです(地元の方のお話として)。

都は、現在1日3万台の車の通行量が、2万台に減ったら2車線化できると述べていますが、どこで・どの時間帯での正式な交通量調査なのか不明です。

7月5日にTBS『噂の東京マガジン』でこの問題が取り上げられま

く息苦しい。見直しを!

A スペースがなく、新たな場所の確保は困難である。

Q ケースワーク力を高めるためのスーパバイザー等の配置やバーンアウトしないための施策はあるか？

A 再任用職員でフォロー中。365日24時間の相談体制について。現在、閉庁時に守衛室を通して担当課長に緊急連絡がなされているが、直接各課長が順番で携帯電話を持ってはどうか？

A 検討する。

この他、「仕事ネットワーク」創出について、国立駅周辺まちづくり及び甲州街道歩道の拡幅について、教育問題について質問しました。

したが、その取材中にも追突事故が起きました。国道20号が日野ハイパスへ移ってからめつきり車の量が減り、逆にスピードを出して危険との訴えも住民から警察に出ています。市長は早急に都に交通量の再調査を要請すべきです。

ひとり親施策の不備

この3か月の間に、ひとり親の方から相次いで相談を受けました。

▼現行のホームヘルプ派遣体制(月12回)では到底働けない。子どもにとって心身の負担が大きい。派遣回数を増やして欲しい。▼離婚調停に1年以上かかった。その間の子どもは学費は、夫からは1円も入らないため、自分が長年(老後のために)かけていた個人年金を解約した。と

長男にしようがいがあるとかわかったとき、私は深い迷いの中に入り込みました。社会から排除されているような感覚。もう仕事はできなくなるという焦燥感。そして何より「うちの家にこんな子はいない」と言われた痛み。

多動な子どもに振り回され、誰も助けてはくれない、と心身ともにぼろぼろになっていた頃、私は自分を認めることができませんでした。

嫌いでしかない自分を抱え、目の前にいる子どもたちと共に生きていくのは苦しいことでした。それでも、生きていける、と思えるようになったのは、仲間との出会いがあったからでした。安んじることができる場所がなかったら、信頼できる人との関係がなかったら……。私は、子どもを殺していたかもしれませぬ。

そうして私は、人と人が繋がるのが絶望の中のかすかな光になり得ることを実感したのです。

学校に行っていないところが、それが「一時所得」にみなされ、ようやく離婚成立したのに見る児童手当がつかない。▼DVで逃げた等の困難な状況を抱えた市民が、市役所での対応が悪く、二重に追い詰められ、ようやく私のところに相談に来られた。……等々。

上村さんの一般質問と市の回答を聞いて思うこと

「いのち」「生活」「仕事」を支える場をつくりたい

いまいが、何歳だろうが、しょうがいがあるがなかるうが、仕事をしようがいまいが、そんなことは関係なく、苦しいとき、安心して悩んでいられる場をつくりたい。一人になれて、でも独りではない。生活を基盤とし、一緒に食事をつくり、食べ、遊び、働き、生活の中から確実な学びを得られる場。そして、生きていくのは案外捨てたもんじやないと実感できれば。そういう場をつくりたいと思ひ、少しずつ活動してきました。

だからこそ、上村さんが取り上げた「いのち」「生活」「仕事」という問題に切実な関心を持って一般質問を聞きました。

けれど、市長や部長達にとってはどこまでいっても他人事のように感じた。その態度に、問題を社会化できないその感覚こそが困難な状況に追いやられた人々を更に追い込むことになるのだ、と深い憤りを感じました。

社会はそうやって立ちほだかります。でもまだ始まったばかり。本気で問う上村さんの姿に、私は背中を押されたような気がしたのでした。

すがい まゆみ (谷保在住)

これはひとつには、国立市に人権課がない、女性センターがない事もよります。

市の相談体制の全面見直しと、現場から見える課題について、国に對しもっと具体的に意見を出していく事が必要です。

六月議会・上村和子の賛否

※1 保育料協議会設置条例の改正案↓反対

「保育料」に関して協議するための「協議会」設置条例の「一部」を改正して、新たに、保育問題全般を審議するための「保育審議会」を設置するという提案です。

「保育料に関する協議」から「保育問題全般の審議」へと、会の性格を一変させる改正ですから、本来は旧条例の改正ではなく、新たな条例の制定・旧条例の廃止という手続きを踏むべき案件だと思います。そもそも、保育審議会の設置自体に問題があります。具体的に何を

6月議会の議決結果と上村和子の賛否

番号	件名	議決結果	上村賛否
第43号議案	市道路線の廃止について	原案可決	○
第44号議案	国立第三小学校校舎地震補強等改修工事第二期(建築工事)請負契約について	原案可決	○
第45号議案	国立第二中学校校舎地震補強等改修工事(建築工事)請負契約について	原案可決	○
第46号議案	国立市市税賦課徴収条例の一部を改正する条例案	原案可決	○
第47号議案	国立市保育費用徴収条例の一部を改正する条例案	原案可決	○
第48号議案	国立市保育料協議会設置条例の一部を改正する条例案	原案可決	× ※1
第49号議案	国立市こどもの医療費の助成に関する条例の一部を改正する条例案	原案可決	○

第50号議案以下議案数件が、本会議が午後5時をもって自然閉会となったため、議決に至らず、審議未了、廃案となった。

臨時議会の議決結果と上村和子の賛否

番号	件名	議決結果	上村賛否
第52号議案	職員の給与に関する条例の一部を改正する条例案	原案可決	× ※2
第53号議案	平成21年度国立市一般会計補正予算(第1号)案	修正可決	× 1頁参照
第54号議案	国立市監査委員選任の同意について	同意	○ ※3

的としてつくる審議会なのか、あまりにも不明確なことです。

8月には、職員がまとめる『次世代育成推進後期計画』(今後5カ年の延長保育や待機児対策等の具体的計画。数値入り、09年4月1日現在、待機児37名、うち1歳児32名)が提出される予定です。その案は、立ち上がったばかりの『子ども総合計画推進委員会』で報告されます。

▲と、今回の『保育審議会』との関係付けが定まっています。少なくとも、BとCとの関係を明確にしないと、混乱を招く恐れがあります。また、保育審議会の委員の構成に

も問題があります。公募市民が1人だけで少な過ぎます。認証保育や家庭保育員や在宅保育の声を反映できる委員も選ばれていません。これでは、幼稚園と保育園の一元化についての審議や、コスト面(学識2名中1名は財政に詳しい人とのこと)での審議だけの会となりそうな構成です。

私は、「関口市長は、▲をもとにしたBの意見も踏まえながら、保育行政に関する庁内でのヴィジョンの共有の確認をじっくり行ない、9月議会に再度提案したらどうか」と意見し、反対しました。

※2 技能系・労務系市職員の給与引き下げ条例案↓反対

国の人事制度改革を受け、号給間を更に4分割し、能力評価に細かに対応できるようにする改正と、技能系・労務系職員の月額給与を一般職よりも3%引き下げるという改正案です。三多摩26市中、国立市と多摩市だけが取り組んでいなかったとして、組合とも妥結したとの事で提案されました。

結果は、私のみ反対、他は賛成で可決成立しました。

【私が反対した理由】

なぜ技能系・労務系の職員についてのみ月額給与を3%引き下げなのか、全く納得いきません。引き下げのならば、一般事務を含めて引き下げるべきではないでしょうか。

該当する職員は、環境センターで働く作業員、保育園の調理員・用務員、給食センターの調理員等の合計29名で、3%引き下げの効果額(市財政に対する効果)は年45万円です。

一般事務職員と格差をつけるためにだけ「改正」したようなものですが、なぜそうまでして引き下げなければならぬのでしょうか?

当局は「民間並みにした」と言います。「他の自治体はもっと低い。国立は周り比べて『高い』ので、市民からも都からも問題にされる。公務員は情勢適応の義務があり、『民間並』にしないとダメなのだ」と言うのです。

これまで、市役所の職員の給与は、職種に関係なく平等でした。

今回、一般職と技能系・労務系職とを分け、技能系・労務系職の給与を引き下げた事は、市が、職種間の格差を認めた事になります。これは大変な問題で、その事に無自覚になると、窓口に来た市民への対応にも無意識のうちに偏見が生まれはしないでしょうか。どんな人が窓口に来られても丁寧に対応する、そのために市役所で働いている職員には、どんな職種であっても、同じ給与を税金から支給していたのだと思います。

議会改革特別委員会

6月議会で議会改革特別委員会の設置が決まり、6月26日に第1回会合が開かれました。

委員会は各党派から選ばれた議員など11人の構成で、私もそのメンバーです。委員長は民主党の生方さん、副委員長は自民党松嶋さんです。

1回目には「今の国立市議会の課題は何か、好きなだけ書いて下さい」と小さな短冊を渡さ

地方自治の本旨に基づき 議会改革を目指したい

れました。全メンバーからなんと123もの意見が出ました。私は、この委員会を、この10年間たまたまっていた沢山の納得いかない点を前向きに検討提案できる場ができた前向きに捉えています。

特別委員会設置の本当の目的が定数削減にある事は、百も承知です。それでもやはり、考えなければならぬ事は山とあると考えます。

市役所の仕事はすべて、市民が困っていたら手助けする仕事です。そのため給与であり、安心した暮らしの担保だと私は主張したいのです。

技能系・労務系の仕事は大変な仕事で、在宅でのホームヘルプに似ています。日常の市民生活を滞りなく進めるための必要不可欠なサポート業務です。29人の職員さんの顔も見ず、声も聞かずしての削減効果額45万円の給与見直しに心が痛みます。

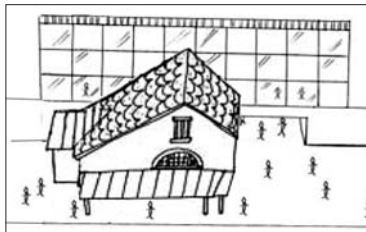
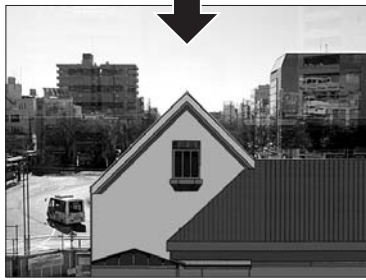
市役所は、その方々の顔を見て、頭をさげて、痛みをもって行なったのでしょうか。今回の「改正」は、得るものより失うものの方が多いと私は思います。

末端の現場で汗を流して働く人を大切にしない施策を私は認める事はできません。

※3 監査委員選任の同意について↓同意

監査委員に公明党の中川喜美代さんが提案され、きちんとした監査を期待して、賛成しました。

旧駅舎を復原すると



新国立駅のホームの高さは地上から9.0 m、旧駅舎は高さ12.3 m。目の前に旧駅舎が立ち塞がり、せつかくのホームからの眺め(上写真)は失われます。【左図は予想図】

また、通路が狭くなり、ラッシュ時や雨の日の混雑は必至です。駅を出た人は、いきなり旧駅舎の裏を見ることがになります。駅前風景は旧駅舎で半分隠されてしまい、開放的な駅前の景観は著しく阻害されます。

関口市長への提言……井上スズ

駅前空間を豊かに

旧駅舎復原はうっとうしい

前上原市長は三角屋根駅舎の保存にこだわって高架事業工事中「駅舎を円型公園に曳いてくる」と3度も議案を提出した。

3回とも否決になる。円型公園に駅舎をもってくれば空間が——視野が狭くなり、うっとうしくなると私は反対してきた。

市議会での否決により駅舎の曳き家は実現せず駅前広場の空間が狭まらずよかつたよかつたと私は胸をなでおろした。

今も駅前に行くたびに曳き家のない空間を楽しんでいる。

6月30日多摩信前で「国立駅周辺まちづくり基本計画(案)概要」をもらい内容を検討してみた。

「空間」——何と随所に「空間」という語がある。

「商業空間」
「歩行者空間」
「駅前空間」
「緑の空間」

「快適な空間」
「空間の確保」
「駅周辺の空間が人びとの力をうみ出し」
等々。

以上は目につ

くままに拾い上げてみたものだが、丁寧に探せばまだあるのではないだろうか。

「基本計画(案)概要」のチラシの一面に「南口駅前広場のイメージ図」がある。

円型公園が現状以上に広く描かれており、周辺の高い建物が描かれていないので空間満点の図であるが、旧駅舎が空間を邪魔している。

はじめて旧駅舎の復原ありきとした案であるが、国立市民全員が復原を望ん

でいるわけではない。

財政難を口にする関口市長は復原のイメージ売り込みには力を入れているようであるが、用地費プラス復原費用を先に市民に公表すべきである。

私は関口市長に空間を狭めるうっとうしい旧駅舎復原の再考を強く促したい。

関口市長への要望をもう一つ。

谷保駅、矢川駅のエレベーター、エスカレーター設置の遅れは行政の怠慢である。市長任期中の取り組みを強く要求する。

南の玄関口の整備もお忘れなく。

なぜ市民からの要望を検討しないのか？

国立駅前をオープンスペースへ！

どオープンハウスで市民に配られた「基本計画(案)概要」の表紙には、デザイン図面の中央に、あたかも既定の事実であるかのように赤い三角屋根の旧駅舎がデンと描かれています。

市民が、「旧駅舎はいらない、国立駅南口前をオープンスペースに」と声を上げているにもかかわらず、無視する姿勢は許せません。

関口市長は、今からでも、これらの市民の声を聞き、検討すべきです。

昨年1月10日、市民から『国立駅南口の、旧駅舎の存在していた場所一帯をオープンスペースとして活用することを希望する要望書』が関口市長に提出されました。しかし、市長はこの市民の声に全く耳をかさず、検討の俎上にのせる事すらしませんでした。

私もこれまで幾度となく、議会で、旧駅舎のないオープンスペースの案も検討すべきと意見してきました。ところが、先日のまちか

加害者としての戦争を語る会

1931年9月18日の「柳条湖」事件から、日本は中国大陸への本格的な侵略を開始、1941年12月8日真珠湾攻撃の1時間前、マレー半島のコタバル上陸によってアジア太平洋戦争に突入しました。

今年の「加害者としての戦争を語る会」は、1940年代のマレー半島における日本軍の加害について、琉球大学名誉教授・高嶋伸欣先生にお話いただきます。高嶋先生は、高校で地理の

知られざるマレー半島の史実

- ◆日時 9月19日(土) 午後1時半～(開場1時)
 - ◆場所 くにたち福祉会館3階ホール
 - ◆連絡先 580・2780 (担当・龍野)
- 教壇に立たれていた70年代にマレーシアを訪れ、戦争中日本軍がしたことを現地の人たちから聞き、それ以来、追悼碑や虐殺事件の生き残り(幸存者)の方、当時を知る方の証言の聞き取り調査等を30年以上続けてこられました。
- 今までの「高嶋ツアー」で明らかになったことや最新情報等をご報告いただきます。